

実践事例編

～ 目 次 ～

- 実践事例① 段階表1-1～1-3
「共同注意」「注視」「記銘・記憶の保持・想起・推測」 ……64
- 実践事例② 段階表1-2
「追視」「注視」「2個を見比べる」 ……66
- 実践事例③ 段階表1-3
「記銘・記憶の保持・想起・推測」 ……68
- 実践事例④ 段階表2-2
「『同じ』の概念形成」（絵と絵（身近な物）） ……70
- 実践事例⑤ 段階表2-3
「単語構成」（1・2文字）、「目と手の協応」（なぞり書き） ……72
- 実践事例⑥ 段階表2-3
「単語構成」（3文字）、「目と手の協応」（なぞり書き） ……74

実践事例①

段階表 1-1～1-3 : 「共同

【プロフィール】

- 肢体不自由特別支援学校 中学部3年生
- 日常生活動作は全介助であるが、車いすでの座位は可能である。

※個別指導：週1回 各10～15分程度

指導技術向上のポイント！

- ✓ 生徒の視線の高さと教員の視線の高さを合わせる。
- ✓ 言葉掛けは、短く、はっきりと。
- ✓ 言葉やポインティング¹で、生徒の視線を教材に引き付ける。

¹ ポインティング：指先を机にトントンと叩いて、教材などへの注目を促す支援。

1 実態把握

個別指導のポイントチェックリスト【指導計画編】より

<p><運動機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 利き手：右手。 ☑ 目の使い方：目の動きはゆっくりだが、追視ができつつある。人とは目が合いにくい。 ☑ 指の使い方：筋力は弱い、意図的に握ったり放したりできる。 ☑ 姿勢の様子：体幹が崩れやすい。頭部が不安定。 	<p><見え方の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 頭部が安定していれば前方を見ることができる。近過ぎると見にくい様子がある。 <p><YES、NOの表出></p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 明確なサインは無いが、視線や体の動きで気持ちを表そうとする。 <p><集中できる時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ やることが分かり、励ましなどの支援があると15～20分程度集中できることもある。うまくできないと活動を諦める傾向がある。 <p><できること・好きなこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 光るもの、音が出るもの、色のはっきりしているものを好む。
--	---

2 指導目標の決定

- ① スイッチ・教材・自分の手に視線を向け、関係性を確かめながらスイッチ操作をする。
 - ② 困ったとき、遊びが途切れたとき等に、教員を見る。
- <発展課題> 物が隠れたときにその場を見続けたり、出てくることを期待したりする。

3 「段階表」から選定した指導内容

		小学部 国語と算数 1段階		
		1-1	1-2	1-3
概念形成	空間・位置・方向			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 記銘・記憶の保持・想起・推測 </div>
認知・操作	目と手の協応		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 物を見る 注視 </div>	<div style="border: 1px dashed red; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;"> 発展課題 </div>
言語(受容・表出)	音・言葉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 共同注意・指さし </div>		

4 教材の決定

【スライドを操作するとおもちゃが動く、光る教材】



- ① 選定理由
 - ・音が出るものや光るものが好き。
 - ・スイッチを握る手を動かそうとする様子がある。
- ② 使い方
 - スライドスイッチを操作して、音がする人形や回転して光る教材等が動かし。

注意」「注視」「記銘・記憶の保持・想起・推測」

5 環境の設定

- ☑ 車いすの背もたれを普段よりも起こして角度を調整し、教材に視線が向きやすいようにする。

6 指導の経過

指導開始時の
学習状況

- ・スイッチを操作して、教材を動かすことができていた。
- ・スイッチや人形に目を向けることはあるが、教員に注目することはない。
- ・うまくスイッチが入らなかったり、手がスイッチから外れたりすると、そのまま意欲がなくなる様子が見られた。

指導教諭等によるOJT

個別指導のポイントチェックリスト【指導実践編】を踏まえた指導教諭等からの助言

- ◎ 援助するときの力加減が適切でした。
- ◎ タイミングよく褒めることができていました。



- ▲ 教員の顔の位置が、生徒の視線よりも高いため、生徒の目の動きを把握しにくく、生徒と先生の視線も合わせにくくなっています。もっと、**教員の顔の位置を低くして、生徒と視線の高さを合わせましょう。**
- ▲ 言葉掛けや教材を動かす時は、「話す・黙る」、「動く・止まる」など、変化を明確にすると、活動が分かりやすくなります。そのためにも、**話し掛ける言葉をより短く、はっきり話すように**しましょう。
- ▲ 生徒の動きが止まった時は、「ここだよ」など短い言葉と指さして生徒の視線を引き付けましょう。その際、生徒の視線が教材に向くまで**指さした状態で2～3秒止め、生徒の視線が向くのを待つ**ことがポイントです。

改善後…

【改善前】

座位姿勢である生徒に、教員が立った状態で指導を行っているため、教員の顔の位置が、生徒の視線よりも高い状態でした。

【改善後】

教員の顔の位置を低くし、生徒の視線の位置に合わせ、生徒の目の動きや表情などを確認しやすくなりました。

以前と比べて、教員の視線の位置が低くなり、生徒の視線や表情が把握しやすくなっています。指さして視線を引き付けることもできています。教材の位置を少し離れたのも効果的です。

+ α

発展として、音が鳴っているオルゴールを隠す課題に取り組んでみます。だいたい視線が合うようになりました。

音の出る教材を生徒の視線の高さに合わせて呈示し、教材に注目するよう促した。

教材を生徒が見えないところに移動させると、気持ちを伝えるかのように教員に視線を向けるようになりました。

7 指導のまとめ

- 教員や教材の位置、視線の高さ、言葉掛け等を改善したことにより、**生徒が教員と視線を合わせたり、教材に注目したりする力が伸びました。**
- 今後は、手本で示したように、更に**視線の位置や教材を呈示するタイミングなどを意識**して、生徒の見る力や人と気持ちを通わせる力を育てていきたいと思います。

実践事例②

段階表 1 - 2 : 「追視」

【プロフィール】

- 知的障害特別支援学校 小学部2年生
 - 自閉症
 - 発語はないが、快・不快の気持ちを表情や発声で表す。
- ※個別指導：週4回 各10分程度

指導技術向上のポイント！

- ✓ 姿勢を安定させるため、机の形状を工夫する。
- ✓ 注目しやすい教材設定を工夫する。
- ✓ 児童の視線に合わせてタイミングよく言葉を掛け、児童の視線を教材に引き付ける。

1 実態把握

個別指導のポイントチェックリスト【指導計画編】より	
<p><運動機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 利き手：右手。 ☑ 目の使い方：右側の視覚が優位。徐々に操作する手元を見るようになってきたが、まだ十分ではない。 ☑ 指の使い方：親指と人差し指を使ってつまむことができる。 ☑ 姿勢の様子：足を伸ばすなど、姿勢が崩れやすい。 	<p><YES、NO の表出></p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ YES は教員にハイタッチ、NO は声を出したり表情を変えて教員を見たりする。 <p><集中できる時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 以前は数分だったが、徐々に20分間ほど継続して学習に取り組むことができるようになってきた。 <p><できること・好きなこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ プットイン課題²、1種類の型はめ、色の弁別

² プットイン課題：目と手の協応（持つ、入れる、落とす）などの力を高めるため、ふたに穴が開いている容器などに物を入れる課題。


2 指導目標の決定

- ① 2つの選択肢（○△）の形の違いに気付き、正しい形を選択できる。

3 「段階表」から選定した指導内容

		小学部 国語と算数 1段階	
		1-1	1-2
概念形成	空間・位置・方向		見比べる力 2個を見比べる
認知・操作	目と手の協応	物を見る 追視	物を見る 注視

4 教材の決定

<p>【○△の型はめ】</p> 	<p>①選定理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字学習へつながる力として基本的な形を見分ける力を高める。 ・正しい形を選択してきれいにはまることで「同じ」の概念形成の基礎を育てる。 <p>②使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凹のふちやはめる形を触って形状を確かめる。 ・呈示された形から凹に合う正しい形を選択する。選択肢の呈示はスモールステップで徐々に難易度を上げる。 ・凹の型の周りのスペースから滑らせて入れるように誘導する。滑らせて入れることで追視を引き出すことができる。 ・木製で適度な深さ(厚み)があるため、はめた時にパチンと音をさせることができる。「できた」「(課題が)終わった」感覚が実感できるようにする。
---	--

「注視」「2個を見比べる」

5 環境の設定

- ☑ 3人の児童と同時進行で個別指導を行うため、他の児童との距離や向きに配慮する。
- ☑ 重点課題を行う時は、教員は当該児童の正面に座る。

6 指導の経過

指導開始時の学習状況	・視線が定まらず、選択肢が出てくるとすぐに手を出して取ろうとしてしまう。 ・手元や姿勢が安定せず、気持ちがそれてしまう。
------------	---

指導教諭等によるOJT



個別指導のポイントチェックリスト【指導実践編】を踏まえた指導教諭等からの助言

- ◎ 形を滑らせて入れる時に、児童の視線を見ながら言葉掛けをし、追視を誘導することができていました。
- ◎ 肯定的な言葉掛けにより、児童が褒められていることを実感して満足そうでした。
- ▲ 児童は操作する側の右手しか使わず、徐々に姿勢が崩れていました。右手の動きを支えるために左手も机の上に置くよう促し、**両手を使う力を育てましょう**。
- ▲ 姿勢や視線を安定させるために、**カッティングテーブル***1を使用してみましょう。
- ▲ 選択肢を見ないですぐに手を出してしまうことを防ぐため、児童の手が届かない位置に**呈示板***2を準備しましょう。
- ▲ 「見て」の言葉掛けが多すぎて児童に伝わっていません。**児童の視線の動きに合わせて、言葉を掛けるタイミングを図り**、効果的に教材に視線を引き付けましょう。
- ▲ 教員の「(教材を)見て」の言葉掛けで、児童が見ることができたその瞬間に、「そうだね」「見たね」と即時評価して目の使い方を育てていきましょう。

改善後…

※1 カッティングテーブル



カッティングテーブルの使用により姿勢が安定しました。

※2 呈示板



このように呈示板を使うと、よく見比べて選ぶことができます。



後ろ側に持ち手を付けて、児童と教材との距離を調整しやすくしたのも効果的です。

7 指導のまとめ

- 児童がこれから**何をするかが見て分かり、「できた」という実感をもてるようになった**ことで、型はめの学習が定着しました。自分から教材をもってくるようになったのは嬉しい変化(成長)でした。
- 机や教材の呈示方法を工夫したことで、教材が出てきても**手を出さずに待てるようになり**ました。
- 滑らせて型に入れることを繰り返したことにより、**対象物を見る力が育って**きました。
- 学習の序盤では、早めに正解をポインティング(指先で叩く)し、迷わせないようにして、**学習のリズムを作っていたのが**とてもよかったです。
- **児童の視線の動きを常に意識しながら教材を呈示したり言葉掛けしたり**することが身に付いてきました。児童も「できた」と分かると、**教員と目を合わせて喜びを共感しようとする姿**が見られました。

実践事例③

段階表 1 - 3 : 「記銘・

【プロフィール】

- 肢体不自由特別支援学校 小学部2年生
- 眼瞼下垂、右目は遠視
- 低緊張で、机に伏せることが多い

※個別指導：週2回 各10分程度

指導技術向上のポイント！

- ✓ 児童が正選択肢³を見た（選択した）タイミングを逃さずに「そうだね」と言葉を掛け、適切に正解を伝える。
- ✓ 誤選択肢⁴は、児童が正選択肢を見たタイミングですばやく撤去する（しまう）。

³ 正選択肢：正解の選択肢。ここでは玩具が入っている箱。

⁴ 誤選択肢：誤りの選択肢。ここでは玩具が入っていない箱。

1 実態把握

個別指導のポイントチェックリスト【指導計画編】より

<p><運動機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 利き手：左手。 ☑ 目の使い方：眼瞼下垂のため、下方が見やすい。右目が遠視のため左目が優位。 ☑ 指の使い方：握力が弱く、物を握り続けることが難しい。 ☑ 姿勢の様子：車いすでの座位姿勢では、頭部を左側に回旋しやすい。 	<p><YES、NO の表出></p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 興味があるものに視線を向け、笑顔になる。 <p><集中できる時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 覚醒状況が低い傾向があり、眠ってしまうことがある。 <p><できること・好きなこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 楽器に触れること。テレビ番組の歌や聞き馴染みのある曲など。
--	--

2 指導目標の決定

- ① 2つの箱のうち、玩具が入っている箱を記憶して、正しく選択することができる。
- ② 注視や追視など、物を見る力や、見えない物が有る場所を推測するなど考える力を高める。

3 「段階表」から選定した指導内容

		小学部 国語と算数 1段階	
		1-1	1-3
概念形成	空間・位置・方向		<p>記銘・記憶の保持・想起・推測 入っていたことを覚え、見えないが入っていることを推測する</p>

4 教材の決定

【ふた付の箱2つと玩具1つ】



※玩具は振動するタイプのもの。本事例では、ふたを閉めて見えなくなっても音を手掛かりに選ぶことができるよう、振動させたまま箱に入れている。

①選定理由

- ・本学習の前に、動くボールを見る学習（右の写真参照）を通して、追視や注視の力が育ってきた。
- ・玩具が入っている方の箱を注視し、移動する箱から視線をそらさないで追視するなど、視機能を高める。



②使い方

- ・利き手側の箱に玩具を入れる。
- ・玩具が入っていない箱、入っている箱の順にふたをする。
- ・教員の「おもちゃどこ？」の問いかけに対して、児童は箱に視線を向けて選択する。

記憶の保持・想起・推測」

5 環境の設定

- ☑ 児童の有効な視空間に教材が呈示できる大きさのカuttingテーブルを使用する。
- ☑ 教員は児童の正面に座る。

6 指導の経過

指導開始時の
学習状況

- ・学習に見通しが持てない様子で、あまり集中していない。
- ・「見て」等の言葉掛けや指差しに対して、視線を向けるときと向けないときがある。

指導教諭等によるOJT + 外部専門家による指導



個別指導のポイントチェックリスト【指導実践編】を踏まえた指導教諭等からの助言

- ◎ Cuttingテーブルの使用の他、車いすの角度を調整するなど、児童がしっかりと見ることのできる空間や手が動かしやすい環境を整えることができていました。
- ◎ タイミングよく褒めたり励ましたりするなどして、児童の意欲や達成感を高めることができていました。
- ▲ 児童が正解の箱を見ていましたが、「そうだね」のタイミングが遅いことがありました。児童の視線が向くのは一瞬です。その**タイミングを逃さずに、言葉を掛けましょう。**
- ▲ 誤選択肢（玩具が入っていない箱）を撤去するタイミングが遅かったです。**一連の手順を理解して、手際よくできるよう練習しましょう。**
撤去の手順・児童が箱を見たら「そうだね」と言いながら箱を指さし、正選択肢の箱を利き手に近付ける。
・同時に、誤選択肢の箱を撤去する。

改善後…

【指導開始時】



指導開始時は、指差しをされても、視線が箱に向きませんでした。

【指導後期】



指導の後半では、「おもちゃはどこ？」に応じて、正しい箱に視線を向けられるようになりました。

「見て」と言われたタイミングで、箱や玩具を見ることができるようになってきました。児童がチラッと見たタイミングを逃さずに、「そうだね」と指さして正解を伝えることで、児童は「できた!」と安心できます。

7 指導のまとめ

- 児童の一瞬の視線やわずかな表情の変化を把握するのはとても難しいことですが、指導の後半では、児童の視線を見逃さずに、「**そうだね!**」と**タイミングよく言葉掛けをすることができるようになってきました。**
- 教員の指導技術の向上とともに、**テンポよく指導が進むようになり**、児童も集中して学習に取り組むようになりました。
- 指導の後半では、玩具を箱の中に入れる一連の動作を見続けるなど、**児童の追視する力が着実に育ってきました。**今後も、学習の手順を理解し、スモールステップで学習を進めていきましょう。